

第3回 学校評議員会

平成30年2月16日(金)

16:00～

於 小会議室

参加者：学校評議員3名

井上美奈子様 (健康科学大学教授)
太田敏夫様 (平成27年度本校PTA会長)
正木啓子様 (山角会富士吉田診療所心理室カウンセラー)

学校教職員4名

校長 高保裕樹
教頭 古屋勇人
教頭 小俣義一
広報情報部 野中涼(記録)

1、校長挨拶

・吉高GPについて全国14校から視察があり、全国的な反響がある。

学年間で浸透の差があるが、普段意識していくことが大切である。

2、学校評価

(小俣教頭より、「学校評価アンケートの集計結果」「学校評価報告書」の報告)

～学校評価について、評議委員との懇談～

I、授業改善

評議員①：ホワイトボードはどのように使われるのか。

職員③：グループワークの際情報を共有したり、発表の際使用している。

教員が喋りすぎない授業にするために役立っている。

生徒の新しい考え方も発見できる。

評議員①：生徒が受け身にならない授業にすることができる。

評議員①：学校行事などをHPに常にアップしているが、HPへのアップは全て計画的に行っているのか。

職員①：計画的なものもあれば、トピック的なものもある。

評議員③：ホワイトボードのアイデアはどこからきたのか。

職員①：前任校での経験と、吉田高校の生徒の現状からです。

評議員②：生徒の自主性の引き出すためには教員の我慢・忍耐が必要であると思う。

職員①：言葉での発信をしたがらない生徒にも、ホワイトボードに書くだけで発信になる。

職員③：数学の授業で使っているが、普段発言が少ない生徒も細かい部分や意外な解法を書くので大変興味深い。

職員②：授業中、生徒が書いたものは画像として記録しておき、次の授業でプロジェクターを使って活用している。

評議員①：保護者からの評価で、子どもの計画的な学習時間や睡眠時間についての評価が低い、これは保護者が子供の様子を気にしている証拠なのだと思う。

職員①：紙ベースの記録表から Classi の入力に変えたことで保護者からも見えるようになった。

評議員③：以前に比べ、課題が多すぎて困っているという生徒の数が減った。教員が上手くマネジメントできている。

評議員②：「授業が楽しい」という回答が信じられない。教員の授業改革・創意工夫の賜物だと思います。

II, 生徒の主体性を高める

評議員①：教員の待つ姿勢が大切、教員が創意工夫をしようとしている姿勢が、生徒にも伝わっているのだと思う。

それでも主体性を引き出せない子はどのように対応しているのか。

職員①：主体性とは無理矢理引き出すものではなく、例えば授業で発言することを強いても意味が無い。生徒自身が様々なことに興味を持ち、何かを考え、それを伝えたいくなるような環境作りをする必要がある。

評議員②：学習時間記録表の活用について「生徒・教員」と「保護者」の回答率にギャップがあるが、保護者の方々は学習時間記録表を確認する機会が少ないのではない、それがこの結果に影響しているのだと思う。

III, 人との関わりの中で生きていることを自覚させる

評議員①：ボランティアの教員の達成度が下がった原因はどのように分析しているのか。

職員①：ボランティアの時間が普段の学校生活の中ではなかなか確保できていないのが現状である。

評議員②：地域との関わりの中で、自分のアイデンティティを確立させてほしい。

世界を目指す気持ちはもちろん持ってほしいが、地域貢献の気持ちも持ち合わせてほしい。将来的には是非地域に帰ってきてほしいところである。

職員①：働く場所とバリエーションが増えると良いのだが、難しい問題である。

評議員③：富士山学は北麓地域の高校独自の取り組みでよい。

現在取り組んでいるボランティア活動が職業決定に繋がる事もある。

高校生は積極的にボランティアに取り組んでいると思う。実は大人の方が、ボランティアの経験が少ないのかもしれない。

職員①：東日本の震災以来、ボランティアの意識が変わった。高校時代はボランティアを行う時間がなかなか確保できないが、卒業後に学生や社会人となって更にボランティアに取り組んで欲しいと思っている。

4.その他・吉高 GP

評議員③：吉高 GP の保護者の理解度が低いという結果をどのようにとらえているか？

職員①：3学年はこれまで2年間の教育目標等の流れもある。バランスを取りながら保護者に発信してきたので、そのような結果が出たのではないかと思われる。今後も段階的に保護者への浸透がはかれるよう取り組んでいく。

評議員②：吉高 GP はどんな場面にも通じる普遍的なもの。

保護者にも浸透すると更なる効果があると思う。

職員②：次の学習指導要領を考えると、この吉高 GP は正しい方向なのだと思う。

評議員②：学校だけでなく、企業でも使える。

高保校長らしい「見える化」だと思う。

職員③：これまで学校目標や方針が不透明な部分もあった。

生徒にもわかりやすいということは、教員にもわかりやすいし実践しやすい。

④全体を通して

評議員②：下吉田出身の元大蔵省財務官の話を聞いて

「我々は富士山を理解していない」

世界のどこに行っても「Mt.Fuji」はみんな知っている。

そのことを私たちが知り、守っていこうという気持ちを持ってほしい。

吉田から見える富士山が「気恥ずかしくなるくらい美しい」と思う。

職員③：まさに富士山学で学ぼうとしていることである。今後もさらに地元の良さを
知る教育に力を入れたい。

評議員②：スマホやゲームの影響なのだろうか、最近の子供達の様子を見ていると指先
の使い方が気になる。例えば、財布から小銭を取る手がつたないと思うこと
がある。

家庭の体験やこれまでの経験なのだろうが、子供たちの今後に支障が出なけ
れば良いと思う。

4、諸連絡

5、その他

終了